

# 歯周病と活性酸素

小峰歯科医院理事長 小峰 一雄

## 歯周病の病因

近年、歯科における歯周病の病因論としてやっとな免疫不全論が台頭してきました。やはり、この病因論には新潟大学の安保徹教授の免疫学理論（白血球の自律神経支配）が貢献していると思います。

歯周病と免疫に関しては長年の臨床において歯周病の患者さんのフォローしておりますと良くわかります。

例えば、長期メンテナンスをしておりますして何の異常も無かった患者さんが突然歯周病を悪化してくる場合があります。そんな場合にはストレス過多とか、必ず全身の不調等を抱えております。すなわち免疫力の低下によって歯周病が悪化すると思われまふ。もちろん、歯周病だけでなくあらゆる病気の元

がストレスと言っても過言ではないでしょう！

## 歯周病のメカニズム

そこで、歯周病発症のメカニズムについて簡単にご説明いたします。身体に精神的・肉体的ストレスがかかると交感神経が緊張し末梢血管（歯茎の血管）の収縮が起こります。歯茎の血管が収縮すれば血流が悪くなり免疫システムが機能低下し、歯周病菌が増えます。

そこで白血球の中の細菌を食する顆粒球が歯周病菌をやっつけるために歯周組織に集まり増加します。そして顆粒球が活性酸素を出し歯周病菌を退治してくれるのです。

## 顆粒球と歯周病

ところが、この顆粒球が過剰に集まるため顆粒球の出す活性

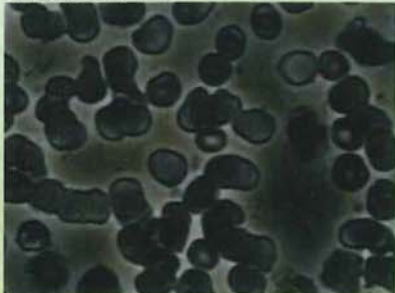
酸素で歯周病菌を退治するだけでなく歯周組織を破壊して歯周病が発症・進行していくのです。活性酸素を出した後の顆粒球は即死し、その死骸が膿なのです！こうして活性酸素によって破壊された歯周組織は炎症を起こし、うっ血し益々血流が悪くなり悪循環を繰り返して進行していくのです。

写真1

◆健康な歯肉



◆歯周病の歯肉





こみね かずお  
歯学博士 小峰 一雄

日本歯周病学会会員、日本臨床歯周病学会会員、アメリカ歯周病学会会員、日本アンチエイジング歯科学会会員、日本抗加齢医学会認定医専門医、日本歯科免疫療法研究会元会長、明海大学歯学部講師。埼玉県にて開業。医療法人小峰歯科医院理事長。

## 歯周病の免疫的治療法

実際に健康な歯肉と歯周病の歯肉からそれぞれ血液を採取して顕微鏡で観察しますと健康な歯肉からは画面に一個ぐらいの白血球が観察できますが、歯周病の歯肉からはたくさん白血球（ほとんどが顆粒球）が観察できます。（写真1）

現在、免疫的歯周病の治療法としては歯周組織の免疫力アップとして血流の改善、活性NK細胞の注入による免疫機能の改善、活性酸素の除去などを行なっております。

今回は最後の活性酸素除去についてお話しします。活性酸素は我々の身体において、とても大事な仕事をしており無くしてはならないものです。前述のように歯周病菌を退治してくれたり、ウイルスまでも殺してくれるのです。

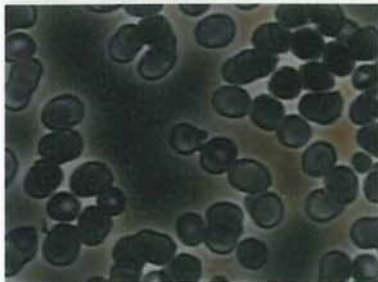
### 活性酸素と歯周病

ところが、現代のようなストレス過多と無菌の世の中では顆粒球が過剰になり、活性酸素が過剰に放出され病気の発症や老化の促進をしてしまうのです。当医院では、この過剰活性

酸素の除去の目的で「SODSH」を投与しております。その結果、条件にもよりますが歯肉炎症の軽減や消炎が多数観察できます。特徴的なのは歯肉炎症の軽減もさることながら他の全身症状の消失が著しいのです。例えば血糖値が下がった、血圧が安定した、お通じが良くなった、若返ったとか様々な良い反響が返ってきたのでした。もともと歯周病は生活

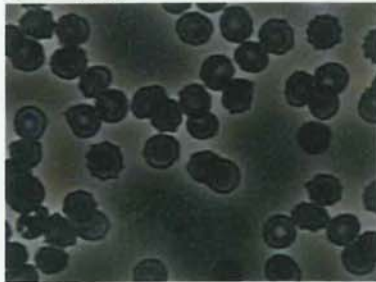
習慣病のひとつですから、当然かもしれません！  
SODSHの投与方法ですが、最初の1週間は症状に応じて一日3〜6包を食していただきます。その結果、1週間で症状の改善を患者さまが自覚できます。その後は症状が出ない程度に減量していただきます。これが応用テクニクだと思っております。（写真2）

写真2 ◆SOD術後



SODSH服用後1時間で正常赤血球になった。

◆SOD術前



活性酸素により、赤血球が収縮シアキャンサイトになっている。

### 歯周病のメカニズム

身体にストレスがかかると交感神経が緊張し血管の収縮と顆粒球の増多がおこります。そこで顆粒球は活性酸素を出し歯周病菌を殺しますが、顆粒球は活性酸素を出すと直ぐに死んでしまうため次から次へと顆粒球が集まり、活性酸素を出し歯周病菌だけでなく歯周組織をも破壊してしまうのです。これが歯周病の発症なのです。この結果、歯周組織は慢性炎症となり、うっ血状態になってしまうため、さらに歯周組織は免疫不全となってしまいます。この悪循環で歯周病は益々悪化してしまうのです。ここで顆粒球の出す活性酸素をコントロールできれば歯周病治療に有効と成り得るのです。

